

# 令和 7 年度第 4 回 広報モニターアンケート結果

調査期間: 令和 7 年 12 月 8 日～12 月 21 日

調査方法: Google フォーム

調査対象 広報モニター 20 人

回答数 12 人

※自由記述は原文ママ。ただし、「特になし」等は省略

## 市公式 note について

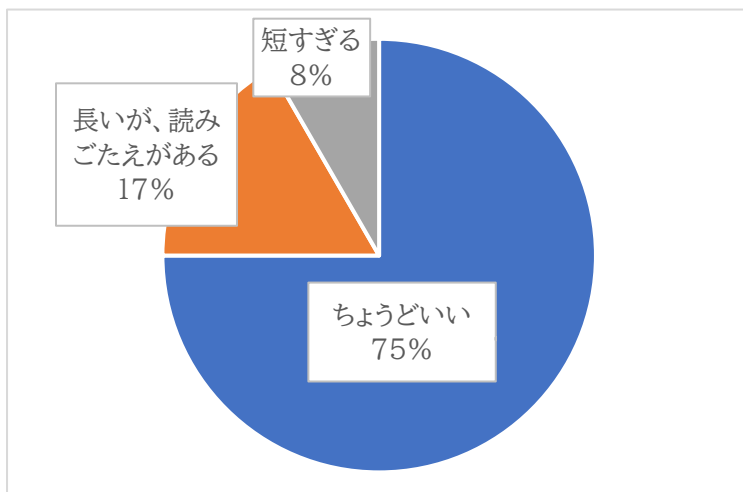
宝塚のまちの魅力を感じてもらおうと、市内の出来事や市の取り組みなどを市職員が取材し、その記事を note で発信しています。いずれか1つ記事をご覧ください、次の質問にお答えください。

<https://takarazuka-city.note.jp/m/m4738dae744b3>

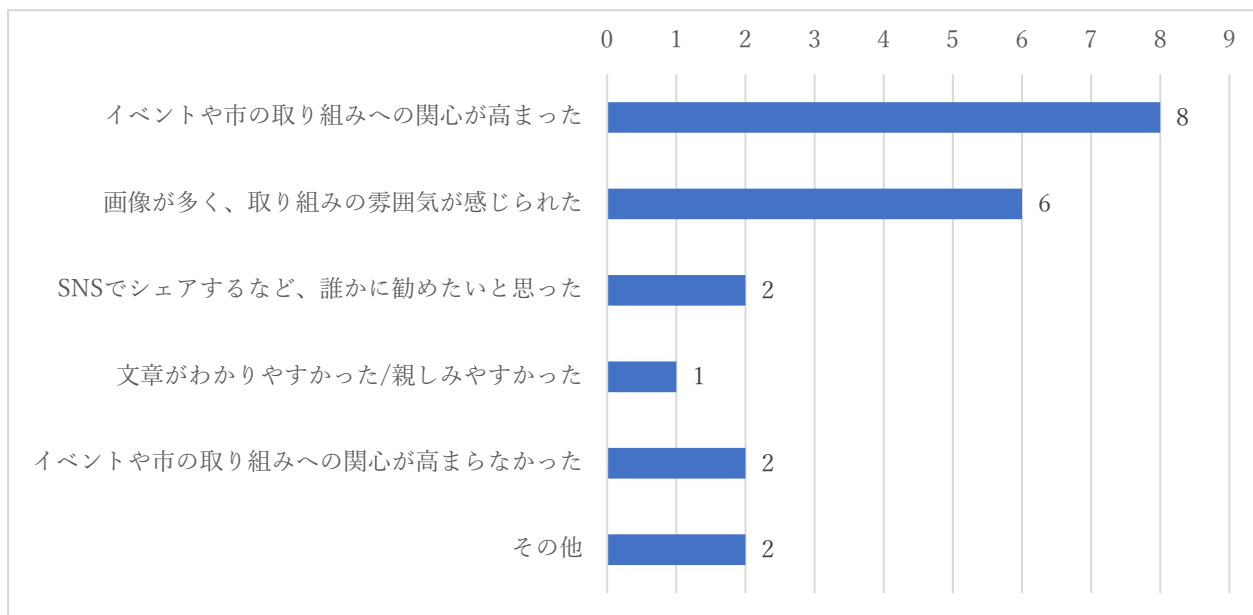
### Q1. ご覧いただいた記事タイトルを教えてください

- ・ 「青空ワイン」でゆくりと過ごす、宝塚のいい一日。
- ・ 「ひとりひとりにやさしい、ささえあいのまち」って？市民と市長が本音で語った“宝塚”のこれから
- ・ 宝塚 111 周年
- ・ 【レポ】🍷 ジャパンコーヒーフェスティバル 2025 in 宝塚が開催されました🔥
- ・ ジャパンコーヒーフェスティバル
- ・ ジャパンコーヒーフェスティバル 2025 が開催されました
- ・ 地域の民生委員の活動
- ・ 対話に中で見えてきた「宝塚市民病院のこれから」・・・
- ・ ようこそ！たからづかちほへ🌸「けものフレンズ展」開幕！
- ・ 持続可能な行財政経営の取り組み
- ・ これからの宝塚はどうなる
- ・ ハンバーガーが大集結！宝塚ファミリーバーガーランド 2025【イベントレポート🍔】

### Q2. 記事の長さについて教えてください



### Q3.記事を読んだ感想を教えてください(複数選択可)



#### 【その他】

- ・ 宝塚市といえば宝塚大劇場で 111 年も続く歴史あるものが残ってるのは一市民にとっても誇りに思います。
- ・ 一般来場者の顔が特定できる写真が複数掲載されており、コンプライアンス的に問題がないのかが気になりました。

### Q4. 記事の改善点などがあれば教えてください

- ・ 参加者の感想や出店者の苦労話などを取材して、記載してもよいかと思う。
- ・ 辛口ですが、文章をもう少し工夫しましょう。行けなかったのが、魅力をもっと伝えて欲しかった。
- ・ 地域内の飲食店などグルメの記事が多すぎる。地域の自営業者は飲食店やカフェ、ケーキ屋だけではなく、多種多様なお店が多く存在する。ボランティア活動をコツコツしている団体や NPO も特集を組んでください。
- ・ 市民の関心の高い市民病院の今後が、市長の語り口で分かりやすく伝えられていると思います。ただ、「(市長が)ひとつひとつの意見に丁寧に向き合っていました。」などの記述には違和感を感じました。市長の対話イベントで市長が意見に丁寧に向き合うのは言わずもがな、当たり前のことです。執筆者は市長を意識して、市長に向かって発信しているのではという疑問を抱きました。公の広報媒体だけに、何よりも上司ではなく、市民に伝えることに徹して頂きたいという感想を持ちました。
- ・ 持続可能な行政改革の取り組みを読んで、宝塚市の行財政改革のことがよくわかりました。DX の推進や官民連携、アウトソーシングなどの指定管理者制度、専門人材活用、ファシリティマネジメント、業務の効率化や集約化に取り組む行政も多いですが、宝塚市はユニバーサルデザイン導入など、多岐にわたっているところが素晴らしいです。どの行政の目的も住民サービスの維持向上と財政健全化の両立なので、近隣の市町村の良いところを取り入れて改革してもらいたいと思います。人口減少や超高齢化による財政悪化、

公共インフラの老朽化といった課題に対応しながら、住民サービスの質を維持向上させてもらいたいと思います。

- ・ 写真も多くイベントの雰囲気が伝わる良い記事でしたが、さらに読みやすく魅力的にするために、以下の改善点を提案します。

1.表紙画像へのテキスト挿入：各記事のトップに表示されるカバー画像(サムネイル)に、記事内容がひと目で分かるような短いテキストやタイトルを入れてみてはいかがでしょうか。画像だけよりも内容を端的に伝えられるため、読者の興味を瞬時に惹きつける効果があると考えます。SNS 上でシェアされた際にも、画像に文字があることで内容を理解しやすくなると思います。

2.タイトル表記と文中文末タグの統一・カテゴリ分けの充実：記事のタイトルに記事内容の種類が分かる括弧書きを統一してつけてはいかがでしょうか(「〇〇【イベントレポート】」「〇〇【取材記事】」など)。現状ではタイトル表記や文中文末のタグ付けが記事によってまちまちで、さらにマガジンで大まかな分類はあるものの一部の記事が漏れていたり、細かなカテゴリ分けがされていないために一覧性が低く見づらいと感じました。行政 note pro の機能を活用し、トップページでタグやマガジンによるタブ分けを行うことで、「イベントレポート」「市の取り組み紹介」「職員レポート」などカテゴリごとに記事を探しやすくなり、読者が興味のある情報に素早くアクセスできるようになると考えます。

3.タイトルの工夫：タイトルは記事を読んでもらえるかが決まる重要な要素だと思います。ありきたりな表現は避け、取材者が実際に感じた驚きや魅力を盛り込んだタイトルにすると、読者の興味を惹き「中身を読みたい！」と思わせられて、記事の閲覧数が増えるのではないのでしょうか。例えば、今回の記事タイトル「ハンバーガーが大集結！」はインパクトがあり良いと思いますが、さらに「6年ぶりの開催に〇〇人が来場！」や「スイーツでできたハンバーガーも！？」など具体的な数字やエピソードを入れるなど、簡単な一工夫でより一層クリックを誘うタイトルになるのではないかと思います。

4.本文構成の統一：記事ごとに本文の構成にばらつきがあるので、読みやすくするためにも構成を統一することを提案します。例えば、記事冒頭に内容をひと目で把握できる短いリード文を置き、その後に記事内の見出し一覧(目次)を掲載、記事の詳細な内容、あとがき、最後に執筆者のクレジット。このような構成に統一すると、長い記事でも全体像がつかみやすくなるのではないのでしょうか。導入で興味を引き、目次で知りたい情報へスムーズに移動できるため、読者の離脱防止につながると考えます。

5.記事末尾に「あとがき」を追加：取材を担当した職員さんの感想や裏話を、記事の最後に「あとがき」として掲載してはいかがでしょうか。取材を通じて感じたことや苦労話などを綴ることで記事に人間味が加わり、読者の共感を得られやすくなると思います。また、本文では新聞記事のような客観的な事実に徹し、感想はあとがきに分けることで、記事全体をより簡潔で読みやすい構成にできるとも思います。

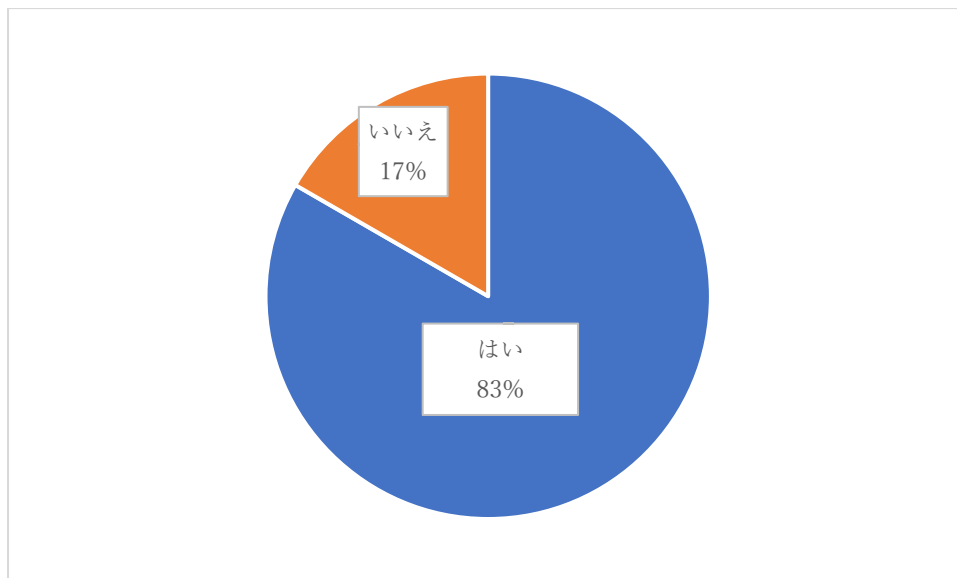
6.執筆者クレジットとプロフィールの明記：記事ごとに担当職員さんの名前(またはニックネーム)や所属部署をクレジットし、簡単な自己紹介や写真を添えることを提案します。執筆者の人柄や専門分野が伝わることで読者に親近感や共感が生まれ、記事の更新を楽しみにしてくれる“ファン”を増やす効果が期待できると思います。

以上の点を踏まえて記事を作っていただけると、市の公式 note 記事はさらに魅力的になり、より多くの市民に読まれるようになると思います。

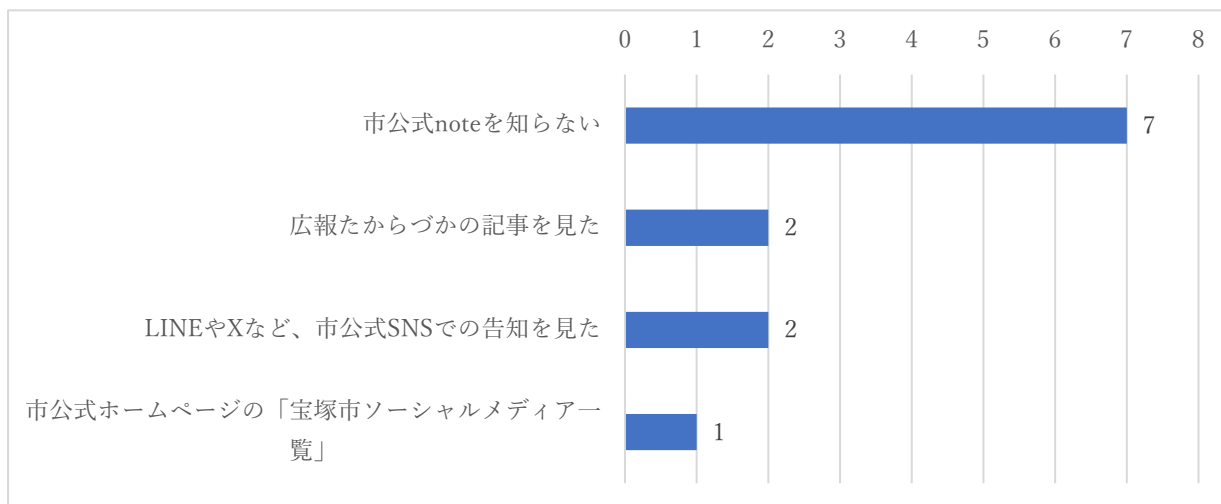
- ・ 次回予告があるなら日付や参加方法等も書いてあるといいと思った。画像を拡大するか、ホームページまで飛ぶといったワンアクションを読者に課すと広報として弱いと思う。あと何度も言っているのは自分だけ

な気もするが本当に「もりりん」をやめてほしい。政治家のキャラクター化とも見える安易なニックネーム、それを公務員側が嬉々として推し進める歪さは、市民からの公正なジャッジを妨げるのではと危惧している。

#### Q5.「note」という媒体をご存じですか？



#### Q6. 「市公式 note」をご存じですか？知ったきっかけを教えてください



#### Q7. note 記事の発信について広報誌や SNS で周知をしているものの、市民の皆さんに認知されていない状況があります。より多くの方に知ってもらうには、どのような方法が良いと思いますか？

- ・ 広報誌でも note の存在を知らなかった。せっかくいい記事が書かれていてイベントや市の取組みを知ることができるのに勿体無いと思った。
  - ①イベントのお知らせのチラシに昨年の様子として note に飛べる QR コードを載せる、
  - ②プレゼント企画等市民の関心の高そうなものを note 経由にする

③広報誌でもっと目立つページに note の存在をお知らせする等の方法が良いのではと思う。

- ・ 更新の度に LINE で発信したらいいと思う。このアンケートが来るまで存在を知らなかった。「イベントがあります！」の告知は来るのだから、その後こうやってレポートを書くなら「イベントがありました！」という報告もあると次につながる気がする。
- ・ 図書館や芸術ホール、宝塚市のスーパーやお店など色々なところに note 記事配信中などと告知する
- ・ note を使ってるのは知りませんでした。せっかく文字と写真でお知らせいただくなら、もう少し充実した記事が欲しいですね。
- ・ 広報誌は毎月読んでいますが、きがつきませんでした。広報誌でもう一度、大々的に特集を組んではいかがでしょうか。
- ・ 宝塚市の LINE やメルマガだけでなく、市役所や宝塚駅やショッピングモール内に QR コードなどでもっとたくさんの市民が気軽に見れるようになればいいと思います。
- ・ 広報誌に掲載されたいかがですか？チラシや宣伝物にも QR 添付したら良い。
- ・ 市の他の広報媒体で note の記事を繰り返して紹介するしかないと思います。
- ・ 市が配布する紙媒体に QR コードを掲載する。記事の内容をショートで SNS へ投稿。宝塚市の情報を発信している方々へ記事発信、告知の依頼を行う。
- ・ 広報誌で間に合っていますがラインでの情報もよく見えています。
- ・ note 内の機能を活用して記事を見つけてもらいやすくすると良いと思います。記事の内容に関連するハッシュタグを設定してユーザーの目に留まりやすくします。記事をマガジンとして整理することで他の記事にもアクセスしやすくなります。コメント機能を活用し、市民とコミュニケーションを取ることで読者を増やせます。note の公式 SNS や他メディアで紹介される可能性があるのも市民が知りたいことや市の課題を解決するような、価値のある記事を掲載すると思います。市民から検索される可能性の高い言葉をタイトルや本文に含めることで、Google などの検索をしてもらえるようにします。
- ・ より多くの方に市公式 note を知ってもらうために、以下の事を提案します。
  - 1.市公式 LINE での更新通知:note 記事を更新した際に市の LINE でもお知らせ通知を送るのはいかがでしょうか。初期設定で通知オンにしておき、不要な人だけ通知オフを選べるようにしておけば、LINE を登録している方全員に必ず 1 度は通知を送ることになり、周知につながると思います。市の LINE を利用している方のほとんどはスマホや PC に慣れている世代だと思いますので、LINE 通知との親和性は高いと考えます。実際に、近隣の豊中市では LINE で note 更新情報を配信しており、記事のスキ数が安定しているように思います。LINE を活用することで、新着記事の見逃し防止と定期的な読者の呼び込みが期待できるのではないのでしょうか。
  - 2.更新頻度の向上と安定した発信:記事内容の充実と併せて、note の記事公開頻度を週 1 回以上にするなど、継続的に発信していくことを提案します。定期更新をすることが読者の習慣づけにつながるのではないかと考えます。市の広報誌に掲載した記事やお知らせを、写真やより詳細な内容を添えて note でも転載・再構成するなど、記事を増やすことは不可能ではないと思います。頻繁に更新があることで、「定期的にチェックすれば有益な情報が得られる」という信頼感が生まれ、認知度向上につながるのではないのでしょうか。
  - 3.市公式 note の情報ハブ化(コンテンツ拡充とカテゴリ整理):市公式 note を、市民が「これさえ見れば宝塚の最新情報が分かる」と思えるような情報ハブに育てることも認知度アップに有効だと考えます。例え

ば、市ホームページ内の観光・イベント情報などを note でも紹介し、イベントカレンダー的な記事や各種分野(観光、子育て、防災、地域活動など)ごとの情報を網羅して掲載します。必要に応じてカテゴリ別にマガジンやタグで整理し直し、宝塚市のイベント情報や取り組みを探すなら公式 note が便利と思ってもらえる状態を目指します。内容が豊富で分かりやすければ、自然と利用者同士の口コミや SNS 共有も促進され、結果的により多くの市民への周知につながると期待できると思います。

以上のような案により、宝塚市公式 note の存在を今まで以上に多くの方に届けることができるのではないかと考えます。継続した工夫と発信によって、市民の皆さんにとって身近で役立つ情報源となることを願っています。